

ゲートボール衰退化の要因と再起に 向けての課題について

中村 本勝*・市川 孝夫**・小林 正憲*

Factors Concerning the Decline of Gateball and Prospects for Its Future Comeback

Motokatu Nakamura, Yosio Itikawa and Masanori Kobayasi

Synopsis

As a sport for people of advanced age, gateball is declining in popularity. The major causes are mental stress resulting from athletic competition and physical illness affecting the sport's elderly participants. Gateball's decline has intensified due to the growing popularity of sports like ground golf. This has led to the weakening of gateball teams because there are not enough players to take part in games. Furthermore, the lack of newcomers has resulted in an insufficient number of people engaged in team management.

Regarding the causes of mental stress, gateball rules mandate severe penalties in the event of an "outside release" or "out-of-bounds" play. This peculiar rule produces high stress among beginning players. Among the elderly members of gateball clubs, in addition, qualified individuals are granted a high social position or ranking. This is a major source of stress, as it promotes resistance to scolding or pressure from a team coach or manager. Such factors produce a sense of incongruity for gateball and there are many cases in which low player participation has been caused. For these reasons, it is difficult for talented persons to become involved in gateball management.

The writer thinks that the following things will be necessary for a comeback or revival in gateball's popularity. Demonstrations of activity and support for all team members will be needed to give returning participants a sense of vitality. Then if the gateball player population increases, team formation will become strengthened by degrees. For this to be accomplished, the cooperation of concerned persons in cities, towns and villages is indispensable. The writer considers gateball to be an important matter for the aging society.

1. 研究目的

ゲートボールが発足し、30年以上が経過した。発祥は北海道、当初はコート内にアンジュレーションを設け、ゲートを通過するのみの極めて単純なルールにすぎず面白さは半減していた。その後、熊本に渡り、高齢者の恒久的スポーツになるよう関係者でルールが改正され今日の複雑多岐なゲートボールが完成した。ときに佐賀県は高齢者スポーツを模索中、この情報を知るや、早速、県下の市町村に所属するスポーツ指導員に派遣を要請、彼

達はゲートボールのルールは勿論のこと、ゲームの進行、そして審判術まで習得し、これを地元を持ち帰って講習会などを開いて普及指導をした。

あたかも、昭和51年は佐賀国体が成功裡に終了し、県民のスポーツ熱の高まる中、時期的にも好条件に恵まれ、そのうえ高齢者に適応したスポーツとして歓迎され、たちまち愛好者が急増、爆発的發展をとげた。この影響で各地区の公園や広場では、早朝から歓声をあげてゲームに熱中する姿を毎日のようにみかけた。苦節20年、関係者のためめぬ努力が実を結び、ここにゲートボールは、

高齢者スポーツとして定着した。

しかし、このゲートボールも元号が昭和から平成に移行する頃から衰退化の傾向をたどり変貌衰微した。今日ではその時の活気は、微塵もなく、かつて整備されていたコートは草が生い茂り、子供達の恰好の遊び場となっている。それでもゲートボールをこよなく愛する者同志、ときおり、公園などでみかけることもある。しかし、人数も少なく全盛期と比較すれば精彩に欠ける感がある。

そこで、私どもは、あれほど繁栄したゲートボールが、何故このように衰退化の一途をたどったか、さらには、全盛期までは不可能としても、多少なりともこれを復活させる手段や方法はないものかを調査研究したので報告する。

3. 分類

(今も継続中の人)

図1. 継続中の年齢層

2. 参加の動機
3. 練習時の気持ち
4. 楽しさの内容
5. チームメートの辞めた理由
6. 病気で辞めた人の理由
7. 今後のゲートボールは如何に
15. 復帰への有無(気持ち)
16. 今後のゲートボールは如何に

4. 結果

(継続中の人)

自分の所属するチームが変貌衰微するなかで、ゲートボールの楽しさを求め、これが何等かのかたちで、生活に潤いをもたらしていると伺える。この方々が今も努力され、存続に寄与されている。今も継続中の人にゲートボールの楽しさの内容について回答を求めたところ、ゲートの通過と相手ボールをコート外に弾き飛ばした時に

2. 調査方法

(1) 対象

佐賀県三根町及び上峰町在住の高齢者65才以上で現在もゲートボールを継続中、および既に辞めた人。150名程度。

(2) 期間

平成9年2月下旬から平成10年8月上旬

(3) 調査方法

あらかじめアンケート用紙を準備、直接本人と面接にて聞き取る方法を採用したが高齢者故に、ときには質問事項とかけ離れた回答をされた人もあった。これらは信憑性に欠けるため対象から外した。

(既に辞めた人)

図8. 辞めた人の年齢層

9. 参加の動機
10. 練習時の気持ち
11. 楽しさの内容
12. 楽しくなかった人の理由
13. 病気で辞めた人の病名
14. 辞めた理由

爽快さを感じる人が多かったことが注目される。ゴルフやグラウンドゴルフはメンタルなスポーツでありスコアはすべて自分の責任であり、誰からも介入されないが、ことゲートボールに関しては相手チームからの攻撃にたえず苛まれての競技であり、ルール上、鬱憤が鬱積するケースが多々ある。しかし、これも常套手段であり、勝敗は度外視し、運動の出来る楽しさ、皆との語らいの場を求めていることに特に注目される。

さらに今後のゲートボールの行方について質問したと

ころ、衰退すると回答した人が74%にのぼり危機感を抱いた人が多かった。その理由は、自分達は細々ながらも何とか維持できるが後継者不足に懸念を示していた。

(既に辞めた人)

辞めた人の年齢層は、

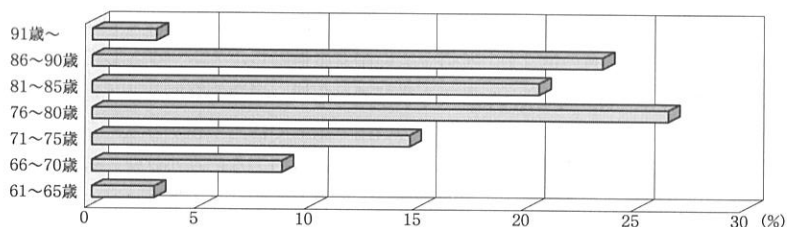


図1 ゲートボール継続中の年齢層

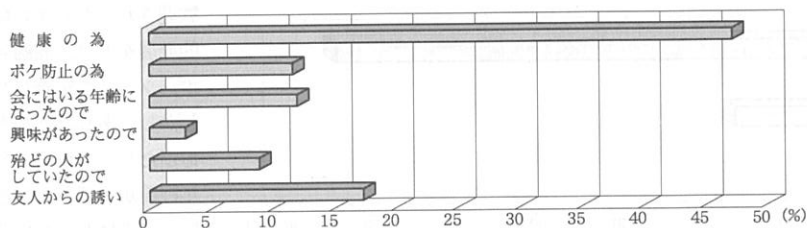


図2 参加の動機

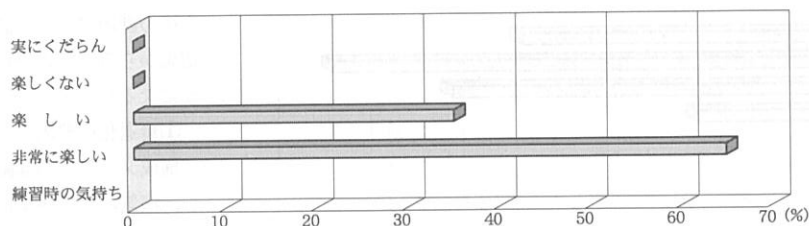


図3 練習時の気持ち

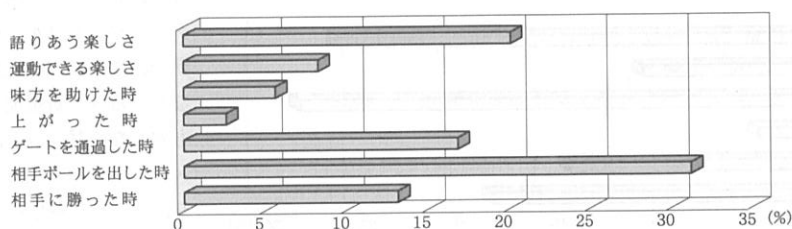


図4 楽しさの内容

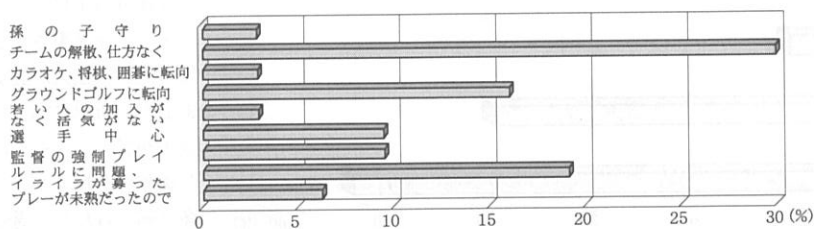


図5 チームメイトの辞めた理由

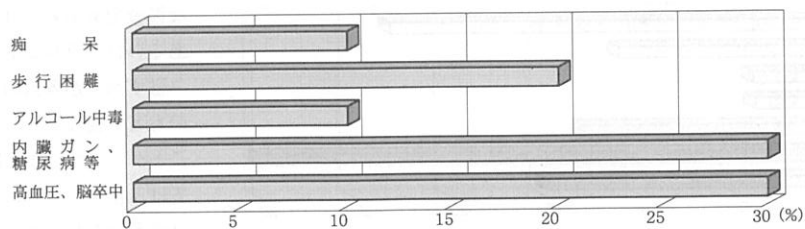


図6 病気で辞めた人(病名)

高齢化が目立ち、86～90歳が圧倒的に多く、次いで81～85歳以上となり、当然の結果といえる、同時に65歳に達した老人会有資格者がゲートボールを敬遠する傾向にある。その理由は複雑多岐なルール上の問題、例えば一度コート外に出されるとプレーの権利を失い、回復しても建て直して時間を要し、挽回するには至難の技である。よってその試合は裏方に徹するのが一般的であり、特に初心者これが陥り易い傾向をもち、ゲートボールの興味を損なう要因ともいえる。

次に復帰の有無(図15)をただしたところ、高齢化のため大半がその気失せて、難色を示した反面、ある程度、条件が満たされれば復帰の気持ちを今も持ち続けている人が若干確認された(25%)。その中で練習場が身近にという要望が強かった。しかし、以前と比較すると員数減少のため、練習場は分散され、これの解決は困難を極める。

5. まとめと今後の課題

高齢者が、再び活気を取りもどし、健やかで潤いのある生活を送るために発展したゲートボール、その背後には関係者のためめ普及活動と、高齢者への適度な運動刺激が

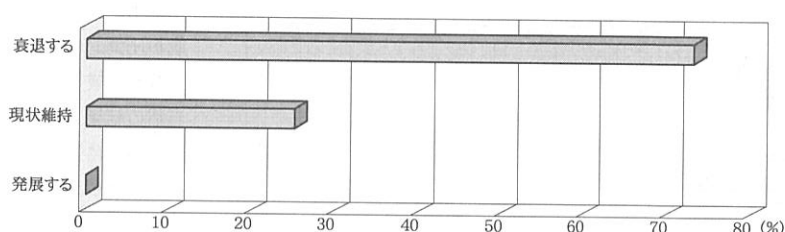


図7 今後のゲートボールは如何に

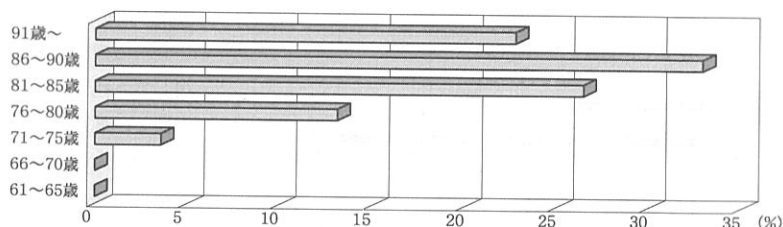


図8 辞めた人の年齢層

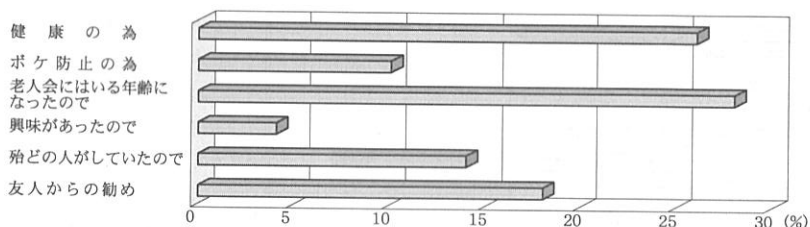


図9 参加の動機

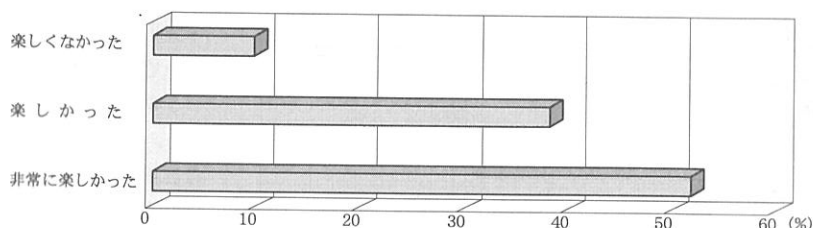


図10 練習時の気持ち

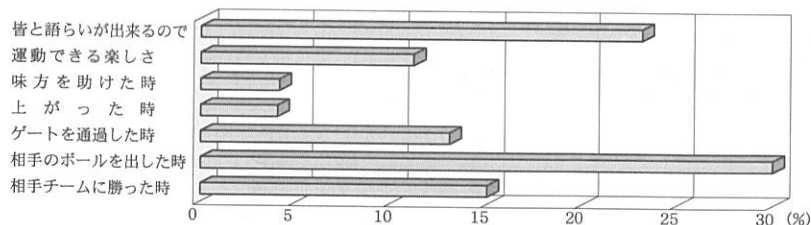


図11 楽しさの内容

歓迎され、たちまち爆発的發展をとげ、高齢者スポーツとして定着した。しかし、あれほど脚光をあびたゲートボールも10年程前から精彩を欠き、序々にはあるが衰退化の方向へと進み始めたのは否めない。この原因と今後の課題について調査結果からみると以下のようになる。

①衰退化の要因

構成メンバーが高齢化し、病気などで序々に部員減に苛まれチーム全体が精彩を欠き、低迷するなか、おりしも台頭するグラウンドゴルフへの転向、さらには後継者となりうるべく新規加入者も殆どなく試合への出場メンバーもこと欠くに至り、ついには解散へと追いやられるチームが殆どであった。

②後継者不足

チームを充実させる為なら底辺の拡大が必須であるが、新規に加入すべき人がゲートボールに対し違和感を抱くケースが多々感じられた。周知の通りこの種目は複雑多岐なルールでありメンタルな競技でもある。ゴルフ、あるいはグラウンドゴルフはすべてが各自の責任のもとで競技されるが、ことゲートボールに関しては、相手チームの介入は必至であり、ゲームの最中コート外への放出は

(場外放出の場合、次のプレーの権利を失い2回目巡ってきた順番もコート内に入るのみ)初心者にはかなりの鬱憤が鬱積し、ついている隙がなく上級者上位のため参加に難色を示す原因であるといえる。また老人クラブ有資格者は新人とはいえども、かつては社会的地位が確立された人であり監督やコーチの叱責に抵抗を感じゲートボールから足が遠のくのは当然といえる。

③今後の課題と対策

ゲートボールは全盛期と比較するなら縮小された構成メンバーに変化しつつも以前よりもより強固な団体もある。殆どのチームが様々な事情で解散し、行き場を失ったにもかかわらずゲートボールをこよなく愛し、生活の潤いを求めている有志達の集いの場として練習を続けるチームを僅かではあるが確認された。今回の調査で、既にゲートボールを辞めた人に復帰の意向を確認したところ、4人に1人の割合で、練習場が身近にある等の条件が整備されれば、可能性有りと回答を得た。前述の如く、殆どの団体が解散したが、有志達のチームは僅かながら今も存続している。かつてあれほど繁栄したゲートボール、当時と匹敵は不可能としても現状より多少なり

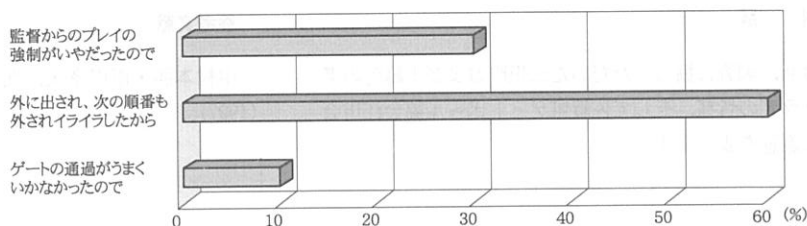


図12 楽しくなかった人に理由

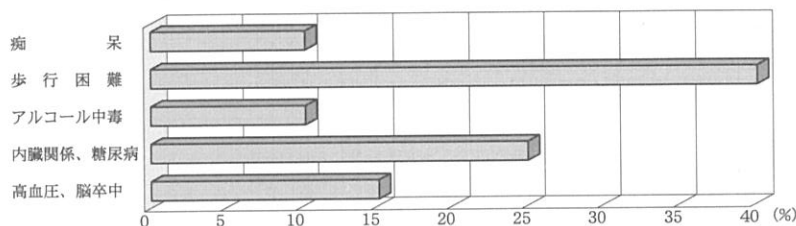


図13 病気で辞めた人(病名)

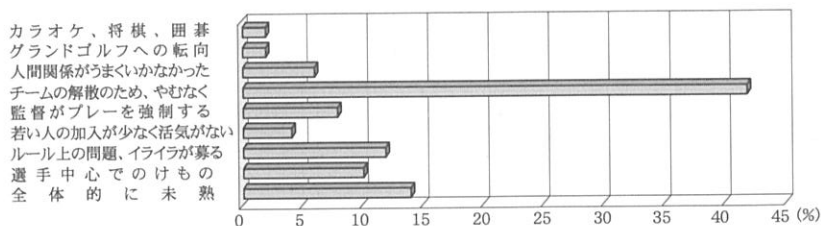


図14 辞めた理由

と活発化しなければならない。そのためには復帰希望者の意をくみ、今も継続する有志達と綿密な連携をとりながら、まず、近くの練習場で少人数ながら開始(練習)し、お膳立てをしてアピール、序々に人員を増やす方法が得策といえる。同時に市町村関係者は物心両面からの協力は当然必要であり、ひいてはそれが、先人達が永々と築いた高齢者スポーツの再建に多少なりとも貢献できると確信する。

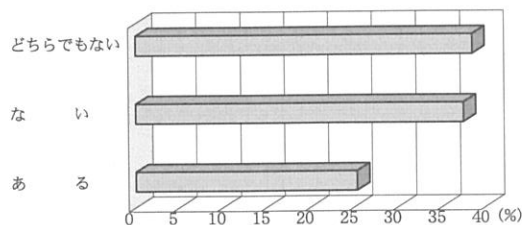


図15 復帰への気持ち

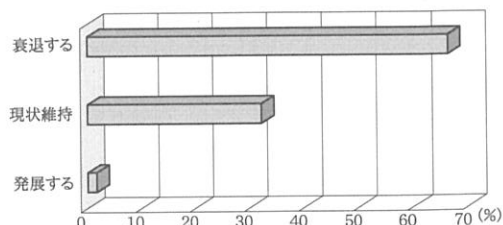


図16 今後のゲートボールは如何に

謝 辞

今回、調査に協力いただいた三根町および上峰町の老人クラブの皆様、そして佐賀県ゲートボール協会江川会長に謝意を表します。

参考文献

中村本勝・市川孝夫，九州体育・スポーツ学会抄録 (1997)。